

難波捨草

難波捨草 上

夏

蛩

源信真

おのずから光につれてとぶ蛩

ほの見えてこそてらすやみの夜

おなじじころを

源正修

いやましに思ひ乱れて蘆辺より

みつ塩風にとぶ蛩かな

浅茅蛩

道恕

浅茅生の草の葉ごとに置く露の

数さへみえて行く蛩かな

水辺螢

道貞

夕されば灘波えならずみだれあひて

蘆間の螢風にちるなり

おなじこころを

藤原忠郷

行く水におのが光のかげみえて

かずかくばかり飛ぶほたるかな

河辺螢

見育

風渡る夕涼しき川隅に

光みだれて螢とびかふ

宣慶家にて人人歌読みける時題をさぐりて、おなじこころを読み侍る

風渡る川せの水の涼しさに

なれも流れて行くほたるかな

沢蚩

藤原信房

夕ぐれは思ひみだれて沢水の

かげをくもでに飛ぶ蚩かな

水上蚩

如雲

ほのみゆる玉の光のすずしさに

賀茂の川せに蚩飛びかふ

野蚩

源清貞

夕されば野べの草葉のうへに

有か定めず飛ぶ蚩かな